

那須看護専門学校では、令和2年度の学校運営評価を行いました。

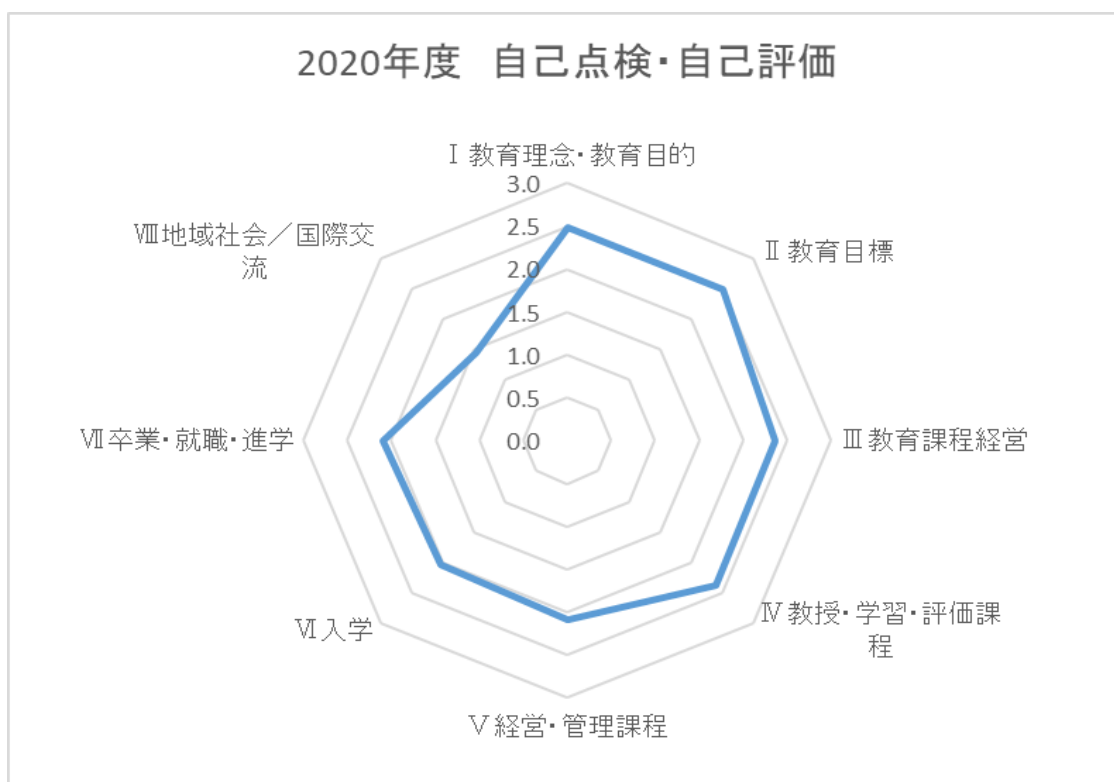
評価尺度は、

3 : 良い、 2 : ふつう、 1 : 不十分

の3段階です。

1. 自己点検・自己評価の結果

評価項目	I 教育理念・目的	II 教育目標	III 教育課程・経営	IV 教授・学習評価過程	V 経営・管理過程	VI 入学	VII 卒業就職進学	VIII 地域社会国際交流
評価	2.5	2.5	2.4	2.4	2.1	2.0	2.1	1.5



2. 評価結果の概要

I・II 教育理念・目的・目標について

令和4年度からのカリキュラム改正に伴い、教育理念・目的・目標や育てたい卒業生像について再確認する機会を持った。母体である菅間記念病院の「博愛」の精神のもと、地域の方々の生活に寄り添いながら医療・看護を行う実践者を育てていくという使命を再認識することができた。学生には、この地域に貢献できる看護師を育てたいと講義や実習指導の中で常々伝えていくようにし、自覚も持ってもらえるよう動機づけていきたい。

III. 教育課程経営について

教育理念・目標に基づいて科目構成の考え方を示している。単位履修方法については、入学時や各年次のガイダンスにおいて具体的に説明し、担任が個別にも指導を行っている。学生が学習準備を整えられるよう、また復習時間を十分に持つよう自主学習方法についても意欲をもって臨めるよう支援していきたい。

R2年度は、4月早々よりコロナ禍により自宅でのリモート講義が続いたが、カリキュラムの進行は講師の協力も得られて予定通り進めることができた。

学生も毎日の課題学習に懸命に取り組む姿勢が見られ、学習の動機付けは徐々にできていったと考える。

IV. 教授・学習・評価過程について

リモートによる授業や臨地実習の時間短縮などの方法論により、教員はこれまでとは違う学生の反応などを新鮮ととらえながらも、理解が十分に得られる教授方法を工夫するなど努力をしている。

教職員の育成については、継続して、教員が研究・研修活動に積極的に参加できるような職場風土を作り、教員として必要な資質の向上に取り組んでいきたい。

V. 経営・管理過程について

学生生活への支援として、健康診断やその後のフォロー、カウンセリング室の開室など適時に行えるようにしている。カウンセラーによる相談時間は、昼休みから2時間とし、学生が利用しやすくしており、利用者数も増えている。

施設・設備については、Wi-Fiが利用できる場所を新設し、日頃から学生が学習しやすい環境づくりを今後も計画的に進めていきたい。

危機管理については、特にコロナ感染症の対策について日々取り組んできた。

現在まで学生・職員共に感染者はおらず努力の成果と言える。

医療従事者としての意識も高く持っていると考える。

VI. 入学 について

R2年度は、41名の入学生となっている。広報活動の充実と休学者・退学者を出さないようにすることが重要と考える。

休学者・退学者の状況を分析し、対策に取り組んでいく。

広報活動は、県内全域、また白河や会津、郡山まで進学ガイダンスに赴き、学校のPRと看護の魅力を語ることでこの道の選択をPRする活動を年間通して行っている。オープンキャンパスでの対応も高い評価を得ている。

VII. 卒業・就職・進学について

卒業生33名中、21名が県北の病院に就職した。(63.4%)

各病院に就職した卒業生が今年は6年目を迎え、病院の中核を担う存在となってきます。今後は、卒業生の到達状況や活動状況など、各病院における評価を把握し、教育内容や方法の改善につなげていく必要がある。

また、学年に応じた国家試験対策を作成し、特に3年生には個別の指導を精力的に行っており、今後も継続していく。

VIII. 地域社会・国際交流について

那須塩原警察署より依頼されている「交通安全リーダー」の役割を通して、地域の方々と触れ合う機会を持たせていただいているが、R2年度も警察署より感謝状をいただいた。

今後、新カリキュラム改正に向けて地域包括ケアシステムの中で看護が実践できるように、地域における医療連携の実際を知ることや、地域で生活する人々の健康に目を向けることができるように、地域の人々との交流がもてるような授業を計画することも検討したい。